

【金沢区】 令和7年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和7年2月3日（月） 14時57分 ～ 16時32分
場　　所	金沢区役所 5階1号会議室
出席者	<p>【議員：5名】黒川 勝議員（座長）、 高橋 のりみ議員、谷田部 孝一議員、 竹野内 猛議員、坂井 太 議員</p> <p>【金沢区：29名】齋藤 真美奈 区長、野坂 高志 副区長、 船山 和志 福祉保健センター長、 中山 陽子 福祉保健センター担当部長、 加藤 暢一 金沢土木事務所長、 間正 勝司 金沢消防署長 ほかに関係職員</p>
議　　題	<p>1 令和7年度 個性ある区づくり推進費 予算案について</p> <p>2 その他</p> <p>（１）庁舎駐車場の指定管理者の変更について</p>
発言の 要　　旨	<p>1 令和7年度 個性ある区づくり推進費 予算案について</p> <p>竹野内議員：区づくり推進費の予算編成において、最近の物価や人件費の高騰が適切に配慮されているか。</p> <p>小柳総務課長：令和7年度区づくり推進費においても、物価上昇や人件費の高騰に配慮して予算編成を行った。「自主企画事業費」については、例えば委託事業を執行する際に、適切な単価を見込んで積算を行った。また、「統合事務事業費」については、郵便料金の値上げが行われたが、必要となる区民の皆様へのお知らせなどに影響が出ないよう、予算額を増額した。さらに、「区庁舎・区民利用施設管理費」では、区民利用施設の人件費の増や、電気・ガスの物価上昇に対応した予算増額を行った。</p> <p>竹野内議員：ありがとうございます。しっかりと手当されているということなので、各現場で適切に事業が執行されるよう、お願いしたい。次に6</p>

ページの保育力向上サポート事業について、保育人材不足が指摘されるなか、職員が自信を持って仕事ができるようサポートすることで働き甲斐を提供し、定着を図ろうという大切な取組だと思う。どのくらいの人数を対象にどのような研修を行うのか伺いたい。

金田学校連携・こども担当課長：金沢区内の全保育・教育施設から、保育現場の将来を担う中堅程度の職員1名前後の出席をいただき、50～60人規模での参加型のセミナーで実施することを考えている。参加した職員には研修の内容を保育の現場に持ち帰って実践する中で、若手も含めたそれぞれの現場で広めてもらうことで、金沢区全体の保育力の更なる向上につなげていきたい。

竹野内議員：一方で少子化も進んで今後の保育園、幼稚園の定員割れが増えてくることも想定されているが、各園が選ばれる園として保育の質と園の魅力向上にいち早く取り組んでいくという意味でも意義のある事業だと思う。是非とも充実した研修をお願いしたい。

7ページの金沢若者ライフデザイン事業について、新規事業としての立ち上げだが、区役所としてどのような背景や課題により、この事業を行うことになったのか。

木村区政推進課長：働き方やライフスタイルの変化により、ライフプランに関する価値観は親世代と比べて一層、多様化している。職業選択という面でのキャリア教育は進んできたが、若い世代が自身の生活スタイルや家族を持つことなど、自分の人生をどう生きたいかということについて、早くから考える機会意外と少ないと考えている。これからの区を担っていく若い世代が、自らの力で人生を切り開いていく力をもつことは、その方々の Well-being の実現だけでなく、住みたい、住み続けたいと感じていただけるまちづくりにおいても、非常に重要なことと考え、本事業を実施することとした。なお、ライフデザインについては、こども家庭庁等でもワーキンググループで検討されていることも取組実施のきっかけとなっている。

竹野内議員：多くの若者の声を直接伺っているが、子育て支援以前に出会

いがない、資産形成やキャリアアップに不安がある等、結婚や子育てに前向きなイメージが持てない方が増えている。知らない、イメージできないからこそその不安であり、今回の新たな取組はそうした若者の不安を解消していく意味で非常に時宜を得たものだと思います、大いに期待している。高校生や大学生を対象にライフデザインセミナーを行うということだが、講師や内容について詳しく知りたい。

木村区政推進課長：今回の取組では、近い将来に社会に出て、自らの力で様々なライフイベントを乗り越えていくことになる方を対象としたいと考えているため、区内に所在する高校・大学での実施とした。若者のライフデザイン支援については、こども家庭庁においても検討が進んでおり、国や他都市での実施例も紹介されているため、こうした事例を参考に、講師については、実績のある業者に依頼することを考えている。若い世代の方が、生活スタイルや家族を持つことについて早くから考える機会は意外と少ないという背景を踏まえ、セミナーを実施することとした。

竹野内議員：金沢若者ライフデザイン事業のなかで子育て家庭とのふれあいを行うという記載があった。少子化や核家族化の影響で乳幼児と接したことがないという若者も増えている。乳幼児と接する大変さと楽しさを知る機会としていただきたい。大切な事業なので、是非成功事例として、全区に広がるくらい発展させていただきたい。

14 ページの金沢防災えんづくり事業に関連して、来年度の局予算で感震ブレーカーや家具転倒防止器具の設置補助が拡大されるようだが、各地域や個人、特に重点対策地域の方にしっかりと周知し、利用促進を図ってほしい。

小柳総務課長：金沢区としても、引き続き各連合町内会や自治会・町内会の場などでの周知をお願いしていくとともに、地域防災拠点への情報提供や区のホームページの掲載など、重点対策地域を含め、区民の皆様へ情報が広く伝わるよう、取り組んでいく。

竹野内議員：16 ページのセーフティタウン金沢推進事業に関連して、昨年は毎日のように闇バイト強盗の被害が報道され、10 月には横浜でも一人暮

らしの高齢者が殺害される痛ましい事件が発生した。多くの区民の皆様から安全対策の強化を求める声を頂いている。昨年 10 月には公明党市議団として、今年 1 月には公明党・自民党市議団と合同で本市の防犯対策の強化を求める市長への要望を行った。その結果、来年度予算では防犯カメラや防犯灯設置補助が拡充され、地域防犯力向上に向けて自治会町内会に総額 6.2 億円の緊急的な補助支援が実施される見込みであるが、各町内会にしっかりと周知して活用されるようにしてほしい。

米山地域振興課長：自治会町内会に対する緊急的な補助支援については、今年度も自治会町内会館脱炭素化推進事業で行われているが、次年度についても、金沢区町内会連合会定例会等を通じて各単位町内会にしっかりと周知していく。区役所窓口でのサポートはもちろんだが、各連合町内会の定例会には支援チームも参加し、区役所全体で補助申請に向けたサポートを行っていく。

竹野内議員：予算研究会で確認したが、全町内会にいきわたる分だけしっかりと用意しているということなので、しっかりとお願いしたい。
22 ページの金沢子どもの夢実現プロジェクトについて、子ども達の声聞いて形にしていこうという大変意欲的な取組だと思う。一方で予算などの制約もあり、実現できることは限られると思うが、参加した子どもたちの思いやアイデアがしっかりと傾聴されたという経験になる工夫をして頂きたい。

渡邊地域力推進担当課長：応募にあたっては、正式に受理する前に事前相談・助言を行い、可能な限り子どもの夢を実現できるよう、子どもたちの思いやアイデアを受けとめたい。また、提案受理後のアイデアコンテストや選定した事業を実施する段階でも、子どもたちの思いをしっかりと受けとめ伴走支援していく。

竹野内議員：25 ページの「寄り道×Kanabun」整備事業について、金沢文庫駅西口はたばこに関する苦情が多く、区づくり推進横浜市議員会議でも何度も問題提起されてきた。今回の改良整備によって、どのように課題の解消を図ろうとしているのか。

木村区政推進課長：駅を利用する多くの方の目にとまる場所にも関わらず、受動喫煙や日常的なごみのポイ捨てなどの課題が寄せられている。緑化の推進やベンチの交換、地域の方に様々なかたちでご利用いただくことなどにより、誰もが使いやすい憩いの場所、自然と賑わいが生まれる場所を生み出し、課題の解消を目指していく。

竹野内議員：26 ページの誰にもやさしい区庁舎整備事業についてだが、「待たない窓口」の定着を図るために、潜在的な利用者も含め、区民の皆様に利便性を実感していただくことが大事だと思う。今回の番号発券システムの更新について、どのように周知と利用促進を図るのか。

操戸籍課長：本市ウェブサイトや広報よこはま金沢区版のほか、SNS やタウン誌など様々な媒体を通じて幅広く周知を行うとともに、来庁者へのチラシ配布や、自治会町内会を通じて地域の皆様に御案内をするなど、継続的に周知を図る。また、検討段階だが、区内の大学や企業、UR などの関連団体の御協力をいただき、学生など転出入手続のニーズの高い皆様への周知を行うなど、様々な手段や機会を通じた広報を実施し、利用促進を図っていく。

竹野内議員：スピード感ある取組で、この1年でおおいに区民の皆様に利便性を実感していただける成果をあげていただきたい。

次に、区提案反映制度に関連して2点確認したい。地域の移動手段の維持・確保の取組について、繰り返し要望してきたが、来年度から各種の新たな地域交通の実証運行や本格運行に際して本市の補助要件が大幅に緩和、拡充されることになった。東朝比奈と六浦駅をつなぐバス便や能見台・富岡地域で実証運行をしてきた「とみおかーと」について、利用促進や関係者間の調整など、区役所もしっかりと調整機能を果たして定着を促してほしい。

木村区政推進課長：現在休止中となっている東朝比奈と六浦駅をつなぐバスの実証実験については2024年12月に改めて地域が再開を要望している意向であることを確認しており、早速、区も間に入り事業者との調整を

始めている。また、「とみおかーと」については本格運行に向けて地域、事業者も参加したワーキングを開催しており、区も同席して局、事業者、地元との調整を行っているところである。地域に寄り添って、支援を行っていく。

竹野内議員：区民文化センターの設計・仕様について、利用者となる方々の意見を聞く機会を設けていただくよう何度かお願いしてきた。実際にそういった機会を設けていただいたということも承知している。金沢区美術協会の方々からは、展示室の照明配置等について要望を伝え、聞いていただいたと伺っている。一方で、いよいよこれから実施設計がなされ、実際の工事に着手していくにあたり、要望内容が具体的にどのように図面に反映されているのかという点を非常に気にしていた。工事着手前、まだ微細な点も含めて変更が可能な時点で今一度図面を前に関係者のご意見を確認していただく機会を持っていただくようお願いできないかと思うが、この点はいかがか。

木村区政推進課長：金沢区美術協会の皆様は施設への期待やご関心が非常に高く、既にご要望をお伺いしている。要望内容は確かに図面に反映しており、近くご説明の機会を設けさせていただく。

竹野内議員：区民待望の区民文化センター整備なので、皆様に最大限満足いただける施設となるよう、最後まで丁寧な対応を図っていただきたい。

高橋議員：窓口サービスに関して、2つある。まず消防について、聞いた話がある。私も防災・防犯の自助グループに所属しているが、そういう団体は、交通費も自分で支払い、手弁当で活動している。団体が保育園主催のイベントで防犯活動を行い、消防の方と意見交換するなかで、消防の方に「お疲れさまです」とお礼を言うと、「我々は保育園とやっているのだから、あなた方にお礼を言われることではない」というようなことを言われ、悲しい思いをしたと聞いている。こういうことが他の部署でもあるのではないか。行政の手の届かない部分を助けてくださっている部分もあると思うので、市民活動をしてくださる方には感謝の気持ちを持って接してほしい。2点目に、自分自身の体験だが、苦情というより改善につながればと

いう思いで話させていただく。戸籍抄本を取りに区役所窓口に向った際に、もう少し丁寧に対応した方がよいと感じたことがあった。その職員を責めているわけではないが、手数料がかかることでもあるので、窓口サービスの対応の仕方について、今後誤解のないよう気を付けていただきたい。

小柳総務課長：貴重なご意見ありがとうございました。窓口対応でご不快な思いをさせてしまったようで大変申し訳ない。先生からご意見をいただき我々も気づくこともあったかと思う。これに限らず、様々な部署でもしかしたら区民の皆様が不快に思っていることもあるかと改めて思い至り、もう一度職員に対して、改めて区民の皆様に寄り添う市民サービス、区民サービスということを、例えば部課長会などで周知していきたいと思うので、引き続きご指導のほどよろしくお願いしたい。

高橋議員：横浜市でもエンディングノートはあるが、横須賀市では、「わたしの終活登録」という事業をやっていて、7～8年前に視察に行ったところ、ノートを預かって金庫に入れていると聞いた。この事業のきっかけを横須賀市の担当者に聞いたところ、あるご夫婦がいて、片方が亡くなり、その後もう片方が亡くなった際に、先にお亡くなりになった方のお墓が分からず、一緒のお墓に入れてあげることができなかったことから発案された事業ということだった。横浜市でも同様の事業を行えないか局に聞いたが、横浜市の規模が大きすぎて難しいと言われてしまった。区単位では行えないか。

富岡高齢・障害支援課長：健康福祉局が令和7年度から新規に、おひとりさまの老後を支える「情報登録事業」を実施する。これは、自分に万が一のことがあった際に、緊急連絡先や、必要な情報・希望を伝える「エンディングノート」の保管場所などの情報を事前に市に登録できる事業である。新たな取組であることから、必要な方がご利用いただけるように、区役所から区民の皆様にしっかり周知していく。併せて、制度の活用状況を把握し、金沢区として付加できることがあるかどうか、検討していきたい。

高橋議員：1月18日に野島青少年研修センターで、「はまみらいみんなフ

オーラム2025」というイベントがあった。区は関わっていない地域のイベントだと思うが、私も所属する金沢区自助連絡協議会が共催していて、たくさんの団体が参加して素晴らしかった。そういうイベントを区に後援してもらえないか。

小柳総務課長：地域のグループや事業者の皆様が自主的に活動されているのは区として非常にありがたいと感じている。これは防災で言うところの「自助、共助、公助」の「共助」という意味で、金沢区自助連絡協議会の活動は素晴らしいと思っている。区としてもこういう取組をどう広げていけるか考えていきたい。

高橋議員：パワーポイント資料19ページ「脱炭素・GREEN×EXPO 推進事業」の、「若手職員による庁内プロジェクト」というのが良いと思う。こういった若手の提案を受け入れる土壌があるというのは良いことだと思うので、引き続き頑張ってもらいたい。

あと、土木事務所に関して、以前にも複数の土木事務所を視察させていただき、更衣室等女性用設備の改善についてお伝えさせていただいた。今回、改善していただいたということで、ありがたく思っている。それでもまだご不便はあると思っていて、そもそも区役所は建て替えをして津波避難場所としての機能を確保しているなか、土木事務所は災害時に一番活躍していただく部署であるのに、あのままで良いのか疑問に思う。建て替えを検討してほしい。

黒羽根土木事務所副所長：金沢土木事務所は津波が来た時に50センチ位浸水するので、我々も問題を認識している。建物の老朽化もあるので、道路局とも調整し、建て替えに向けてどのように動いていけばいいか考えていきたい。

高橋議員：市民局や道路局で連携して取り組んでほしい。また、この間自民党の予算研究会で、区役所職員はそれぞれ災害時の担当地区を持っているが、土木事務所の所長や副所長も担当地区を持っていることについて話題になった。災害時には地域に行くよりも金沢区全体を総括すべき土木事務所の所長や副所長も担当地区を持っていて、担当地区に行かなければ

ならないというのはおかしいのではないかという話題だったが、私はその事実に気づいておらず、話を聞いて驚いた。そういう編成の仕方はどうなのだろうか。

小柳総務課長：ご指摘のとおり金沢区では土木事務所副所長も担当地区を持っている。区によって土木事務所副所長が担当地区を持っているところと持っていないところがあり、市として統一されているわけではない。今後どのような形が良いのか、検討していきたい。

高橋議員：「区提案反映制度」の「金沢シーサイドライン並木北駅、幸浦駅への歩行環境の改善」について、対応していただけることになり、良かったと思っているが、一部対応となった「横浜逗子線の整備促進（六浦駅西口周辺地区の道路状況の改善）」に関連して、特に六浦小学校の裏の工事が終わる時には朝比奈インターの直進化もセットだと考えている。直進化に対する地元の要望も多い。昔地元と直進化しない協定を結んだという話も聞いたので道路局に問い合わせたが、そういう書類は道路局にはないと言われた。40、50 年前の話がいまだに残っていて、今の人達に不便を強いているというのはどうなのかと思う。

また、小柴自然公園の整備計画に関して、14 年か 15 年位の計画で考えられていて、現在真ん中くらい。計画当初とは時代が変わっている。公園の在り方についても一度意見募集をするなどしてはいかかがか。

あと、東日本大震災の時の下水道処理の焼却灰が金沢工場の横にまだコンテナで積み上げられている。最近金沢区に来た方は知らないかもしれないが、鶴見区と金沢区には東日本大震災の時の下水道処理の焼却灰が 26,600 トンもコンテナに入れられて積み上げられている。金沢区は地元であるし、金沢区として焼却灰を放置するのはいかななものかと議会で質問をする後押しをしてほしい。当時の環境創造局に聞いたところ、焼却灰の保管費用は東京電力が払っているから問題ないと言うが、東京電力のお金は私たちが払っている電気代であり、結局払っているのは私たちである。局は認識が違うと思うので、区には後押しをお願いしたい。

黒羽根土木事務所副所長：土木事務所としては、朝比奈インターと下水道汚泥焼却灰について回答させていただく。まず朝比奈インターについて、

私も道路局と協議は進めているが、地元との協定の話は確認できていないため、現在の状況をお話すると、今年度このエリアでの道路工事はなかった。ただ、今後も道路整備の予定はあるので、周辺の道路整備の状況を踏まえながら、引き続き、道路局とともに、地元の皆様との対話を継続していく。

下水道汚泥焼却灰については、おっしゃるとおり東京電力から保管料をもらってコンテナで保管されている。土木事務所からも現状と今後の見通しについて局に確認していきたい。

木村区政推進課長：小柴自然公園については、全体を３期に分けて整備する計画となっていて、現在は第１期エリアの整備が終わり、これから第２期エリアの整備に入る。第３期エリアの整備が令和１４年度末頃完成予定となっている。当初基本計画策定の際に市民のご意見を聞いており、当時いただいたご意見を尊重できるように、大々的なパブリックコメントではなく、議員団会議や区連会でご意見を聞きながら時代に合った計画となるように取り組むと聞いている。区としても、時代に合わせて計画に現状の課題を反映できるように局には話していきたい。

高橋議員：コンテナの中の焼却灰は、当初は南本牧に埋める予定であり、横浜市は埋めても大丈夫な安全なものだという認識だったが、一部の反対派の圧力により焼却灰を埋めずに保管するようになったと記憶している。安全性は確保されていると思っていて、それをどうしていくのかと思っている。

また、小柴自然公園について、区連会や我々の意見より、これから公園を利用する機会の多いであろう若い世代の意見を聞いてほしい。

木村区政推進課長：小柴自然公園については、第３期エリアは「活動、体験、学習エリア」と位置付けられており、特に子どもが使うことが想定される。近隣の小学校などと連携したワークショップなども考えてほしいと局に伝えていきたい。

黒川議員：焼却灰については、漁業関係者の反対もあったと思うので、そういった方達の意見も聞いてほしい。

谷田部議員：パワーポイント資料 18 ページの「寄り道×Kanabun」整備事業について、以前から金沢文庫駅西口に留まってたばこを吸う方が多い。この事業でどうしていくのか。喫煙所を設置することは可能か。日本たばこ産業株式会社に聞いたところ、京急電鉄や地元の要望があれば喫煙所設置の費用は出してくれるというような話だった。

木村区政推進課長：現在、横浜市が設置している喫煙所は全て市内 8 か所の喫煙禁止地区にあり、工事、設備等については日本たばこ産業株式会社からの寄付を受けている。こうした現状を踏まえると、金沢文庫駅は喫煙禁止地区の指定がされていないことから、市による喫煙所の設置は非常に困難である。そのため、緑化を推進し、ベンチを交換してにぎわいを創出することで、喫煙しづらい環境を作りたいと考えている。

谷田部議員：朝 8 時前後には学生がバスを待つ長蛇の列ができる。動線も含めて検討する必要がある。どういう方向性か。

黒羽根土木事務所副所長：このスペースは、平成 22 年に河川であったところを暗渠化し、プロムナードとして利用していて、上部は道路区域となっている。一方、プロムナードには、ベンチや机の設置により、飲食や喫煙場所として利用されている現状がある。ベンチ、テーブル、その他看板等が設置から 13 年ほどたっていて老朽化しているため、これらを一度撤去し、人が滞留しにくいハイウエストなベンチを設置するなどして、円滑な歩行空間として再整備していこうと考えている。

谷田部議員：あそこに椅子やテーブルは必要なのか。市民への優しさでもあると思うが、椅子やテーブルがあるために、喫煙者や滞留者が増えるということにもつながっているのではないか。

黒羽根土木事務所副所長：喫煙者や滞留者に関する陳情も多いので、事情を踏まえ、現在と同じ形態のベンチは必要ないと考えている。ただ、当初設置した経緯が不明であるということと、少数ではあるが、ベンチが必要だというご要望もあることから、現在と同じ形態のベンチは撤去し、深く

は座れず、少し寄りかけられるような形態のベンチを、端ではなく中央寄りに設置することで、人の目につき、喫煙しづらい環境を生み出したいと考えている。

坂井議員：福祉の観点からはどのように考えているか。

平福祉保健課長：福祉保健センターとしては受動喫煙防止の啓発を行っているが、喫煙禁止地区ではないことや、高齢の方が買い物後にベンチでお休みするような状況もあり、ベンチを全て撤去というのは難しいのではないかという議論があった。

谷田部議員：バスのロータリーには座ってくつろげる場所が何か所かあるので、それで十分ではないかという気もする。今後も検討してほしい。

黒川議員：4月から横浜市の公園は全面禁煙になるが、駅前広場を公園にはできないのか。

黒羽根土木事務所副所長：プロムナード全体が道路区域となっている。道路区域のごく一部を公園にできるか、区域の変更が可能か、あの面積で公園としての要件を満たすか等、もし公園にしようとするなら、かなり関係局との協議が必要となってくるだろうと考えている。

黒川議員：バス停近くまで、広場全体を公園にできないかと思う。検討してみしてほしい。

パワーポイント資料の7ページ「ライフデザインセミナー」を高校生や大学生を対象に新規事業として実施ということだが、是非高校生や大学生にアンケートをとって感想や意見を聞いてほしい。こども子育て条例にもあるが、若い世代の意見を聞くことが大事だと思うが、いかがか。

木村区政推進課長：新規の取組であり、意欲的に予算計上を行った。結果については我々も非常に気になる場所であり、事業を実施した際には、心情変化や感想など、アンケートや、当日のワークショップの内容を把握することにより、次回以降にいかしていきたいと思っている。

黒川議員：13 ページの金沢防災えんづくり事業にも、小学生向けのワークショップや中学生向けの防災教室という記載がある。これも子ども達の意見をしっかり聞いてほしい。

小柳総務課長：防災においても、引き続き子どもの意見を聞いていく。小中学生への防災教育のなかでアンケートをとるにしても、単に択一式ではなく自由に意見を言える場などを、学校の先生方とも工夫しながら検討していきたい。

黒川議員：15 ページの「金沢子どもの夢実現プロジェクト」について、詳しく聞きたい。

渡邊地域力推進担当課長：事業の進め方としては、区内の子ども達を対象に、金沢区において実現したい夢を募集する。区在住・在学の小中高校生を対象に、グループでの応募とする。なお、グループには大人サポーターが1人以上いることを条件とするが、見つからない場合には、区が地域の方と相談してサポーターとなっていただけの方を見つける。夏頃にアイデアコンテストを実施し、事業内容を発表してもらう。審査にあたっては、子どもも審査員として参加し、子どもの意見も事業に反映させる。コンテスト終了後は、区役所や地域が支援を行い、年度内に事業を実施することを考えている。

黒川議員：都市整備局がやっているまち普請事業の子ども版というイメージか。

渡邊地域力推進担当課長：近いイメージである。

黒川議員：募集をかける際には学校などにもよく説明をしていただき、たくさんアイデアが出てくると良いと思う。
まち普請事業について、金沢区からは3つエントリーがあり、1つは当選したが、アスレの森とビアレの事業は届かなかった。どちらも引き続き頑張るということだったので、まち普請に再度エントリーするのか、自分達

で資金を調達するのは皆さん次第だと思うが、引き続き区としても支援してあげてほしい。

渡邊地域力推進担当課長：シーサイドタウンの「あつまれ なみき！」の方は、施設のなかでコミュニティサロンのようなものを作るということなので、引き続きまち普請へ応募するのか、他局の事業で何か可能性がないか、あるいは額は小さくなるが金沢区の「金沢区空き家等を活用した地域の茶の間支援事業補助金」を活用するという可能性もあるかと思うので、地域の方達のお話を聞いて丁寧に対応したい。アスレの森の方は、まち普請以外に補助できるものがあるかという点と難しいと思うが、連合町内会や地区社会福祉協議会など地域の皆さんが多くかかわっており、どのような対応ができるか、お話をよく聞いていきたい。

黒川議員：ピアレの方は、商業施設の中ではあるが、空き店舗なので、空き店舗の支援や助成金が局にもあると思うので、アドバイスしていただけたらと思う。

区提案反映制度について先ほどの質問と重なるが、朝比奈インターの直進化の件については、地元の自治会町内会の人達が文書を持っているのではないかと思うので、確認をすると良いと思う。直進化で便利な思いをする人もいるだろうが、沿線に住んでいる方達にとっては 24 時間悩まされることにもなりかねないと思うので、是非慎重に進めていただきたい。ただ、時間の流れで、当時の方達が世代交代すると考え方が変わることもあると思うので、よく地元の人達の声を聞いてもらいたい。心配する方達のために、交通量に応じてアスファルトの厚さを変えるなどの整備方法の工夫、直進化しても通学時間帯は使えないようにする、大型車通行禁止等、柔軟な対応を考えてもらえたらと思う。昔の経緯もあるが、それも踏まえて時代の流れを考えて対応してもらいたい。

区提案反映制度の「金沢シーサイドライン並木北駅、幸浦駅への歩行環境の改善」に関しては、エレベーターの入札が不調になって遅れたと聞いた。遅れた結果、どのような影響が出るのか、スケジュールが変わるのか伺いたい。

木村区政推進課長：おっしゃるとおり、並木北駅のエレベーター設置は入

札が一度不調になったが、再度入札を行い、落札された。令和6年か7年度中には工事に着手し、1年ほどかかるかと思うが、近々並木北駅にはエレベーターが設置される見込み。幸浦駅は引き続き設計を行っている。幸浦駅のエレベーター設置の詳しい工期については、確認していく。

黒川議員：片方の遅れがもう片方に影響を及ぼすことのないようにしてほしい。地域の方達が待ち望んでいるので、迅速にお願いしたい。

小柴自然公園についても、地域の皆様の意見を聞いてもらいたい。最近のオリンピックを見ても、様々な新しい競技が出てきていて、当初計画段階では想定されていなかった新しいニーズがある。若い人のニーズをとらえて、良い公園にしていきたい。できれば第1期エリアのなかにもスケートボードが楽しめる場所があれば良いと思う。南側のトイレ前あたりにスロープがあり、そこでスケートボードをしている人がいるらしい。スケートボードは禁止だという看板があるが、ニーズがあるなら、禁止の看板を作るよりスケートボードをしても良い場所を作れば良い。南側のスロープは住宅地も近く、近隣への音の問題もあるため、もう少し山側に作ってはどうか。それも子どもの意見を聞いて政策に反映させるということだと思う。区役所からもみどり環境局にそのように提案してほしい。

2 その他

(1) 庁舎駐車場の指定管理者の変更について

坂井議員：庁舎駐車場は、近隣駐車場の料金も考慮して料金設定をしているのか。近隣駐車場よりも安価にして近隣駐車場の経営を圧迫するのは、金沢区としても本意ではないのではないかと。

小柳総務課長：結果的に近隣駐車場よりも安価になったのかどうかまでは把握していないが、タイムズ24が近隣駐車場の料金と比較をしながら同水準となるよう料金設定をしている。もしなにか運営後不都合があれば、ご意見をいただきたい

黒川議員：区役所駐車場が満車であることが多い。満車時の対策として、

	<p>近隣駐車場を借りられないか交渉したらどうか。南税務署では、南税務署に來た方は隣のピアレヨコハマの駐車場を使うことができ、そのかわりに買い物をしていってもらうという Win-Win の関係ができています。区役所でも同様の取組ができるのではないかと。そういう交渉をしてみたことはあるか。</p> <p>小柳総務課長：ご意見ありがとうございます。率直に申し上げて、そこまで思いがまだ至らなかったというところはあるので、少し検討させていただきたいと思う。</p> <p>黒川議員：区づくり市議員会議や議員団会議の際、できれば入口のところの案内板で、この会議をやっているという事を周知してほしい。区民の皆様知ってもらうことも大事。我々も何階で会議をやるのか分からなかった。</p> <p>小柳総務課長：失礼しました。今後そのように対応させていただきたい。</p> <p>谷田部議員：区づくり推進費とは全く関係がないが、金沢スポーツセンターはいつ開館するのか。遅れているのか。</p> <p>米山地域振興課長：金沢スポーツセンターは当初 4 月開館予定であったが、入札の不調や業者間の調整により時間がかかり、6 月中旬に開館予定となった。6 月中旬開館の場合、4 月の中旬には予約開始になるので、2 月の区連会や広報のタイミングで開館のスケジュールや予約方法をお知らせしたい。</p>
備 考	